

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの理念が作られている。	ホームの理念は日々のサービス提供場面の中で職員が常に立ち戻る根本的な考えとなっており、十分に理解されている。入居者の支援に携わる職員の姿を見て実践につなげていることも垣間見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2回お祭りを企画し、地域の方々のご協力を得たり、ボランティアとして月1回の音楽療法、演歌体操などを行っている。週1回運動教室を開催して地域の方々に参加して頂いている。	地域交流スペースを使い週1回運動教室を開催し、地域住民に参加を呼びかけ、健康面や身体機能面での予防対策の一助になるようにと取り組まれている。自治会にも参加し地域との交流も順調に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースを利用した運動教室を週1回実施している。 施設見学に於いても随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開き、ご利用者様の生活の様子、サービス向上の取り組みを報告し、意見交換を行っている。地域と協力体制をとっている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に行われている。家族会代表、自治会長、民生・児童委員、区長、市担当部署職員等が参加し、現状報告や法人の方針などについて話し合いがもたれている。特に地区代表の方から力強い協力を得ており、ホームと住民との良き架け橋となっ ていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回実施している運営推進会議の中でご利用者様の状況や生活、サービス向上の実情を報告し、伝えている。市町村に相談できる体制が整っている。	市の担当者とは開設以来良好な関係が続いており運営推進会議にも出席いただいている。市内のケアマネージャーの会議などを通して情報を得ながら市との協働姿勢をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員勉強会を実施している。 また、朝と昼のカンファレンスの中で身体拘束をしないケアについて話し合いの場を設けている。身体拘束は法人としては行わない。ただし家族のどうしてもといった希望時にはカンファレンスを行い期限を明確にして行う。	職員は研修やカンファレンスを通し身体拘束による弊害を理解しており、拘束のないケアの実践に努めている。入居者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく一緒について本人が満足するまで付き添っている。安全面にも配慮しつつ、心地よさを感じていただける暮らしができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者だけでなく日々の業務でリーダー制をとり、リーダーと管理者、スタッフが密に連携を取り合い、虐待が見過ごされないように注意を払いながら業務を行っている。		

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ったが、今後増やすことで、職員の理解を促進する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学して頂き、実際の生活を見ることで利用者や家族の疑問が生じた際、その場で説明し、理解・納得して頂けるよう努めている。理解のうえ利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会、家族面談会の実施だけでなく、面会時にも意見を伺うようにしている。	定期的に行われている家族会や行事の折に家族の意向・要望を表せる時間を設け、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、昼のカンファレンス、月に1～2度の全体会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者により年2回行われる個人面談やミーティングで職員の意見や要望を聞き取り運営に取り入れている。また、管理者が日常的に介護の状況や実情を把握することで職員との意思疎通も図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	提示された事項については整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週月～金の昼食後の研修、法人全体会、各施設の課題等に関し研修を行っている。また、働きながらヘルパーの資格がとれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まず代表者、管理者、中間管理職が取り組みできるよう機会をもつようにしている。機会があれば、スタッフに地域交流の参加を呼び掛けている。		

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問での情報収集の中で、本人、家族などの願いや不安などに耳を傾け入居前に全スタッフでカンファレンスする事で情報共有し、関わりを持っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際に他職種の専門スタッフが関わり、左記のように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種で関わることで本人、家族が求めている今一番必要としている支援を見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と一緒に季節を感じながらの散歩、外出の機会を多くもち、食事の準備や後片付けを一緒に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の願いを聞く機会を面談の中でもち、生活の中から本人の思いを見つけ、家族に伝え、支え合えるように模索して関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前の情報と定期的な家族面談の中で情報収集し、カンファレンスを実施し、必要時には家族に協力を求め、支援している。	入居前に住んでいた近所の友人、知人の随時の訪問を受ける入居者がいる。事業所の隣には馴染みの公園があり、気分転換の散歩に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大勢のグループだけでなく、小グループでのレクリエーションや会話によってご利用者同士との絆を深めている。		

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような事例が発生した場合には近況確認をしたり、家族が何でも相談できる関係を継続していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常時ご利用者様の思いに目を向け、本人の希望する生活ができるように皆で考え、より本人の希望に沿った暮らし方を検討している。	言葉によるコミュニケーションで判断するよりも表情から汲み取るほうが良い場合もあり、個々の入居者ごとにきめ細かく対応されている。散歩、入浴等、各入居者の意向を踏まえ、希望に沿ったサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集を行い、ケアマネ、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に変化が見られた際には記録に残し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の願い、情報収集を行い、朝と昼のカンファレンスにてスタッフの意見を聞き、プランに結び付け、実施していく中で再検討もしている。	介護計画にライフサポートプランを導入し作成しており、カンファレンスの記録もしっかり取り入れ、定期的な見直しも実施し、入居者に状態変化が見られた場合には随時計画を変更している。	モニタリングの記録に記号等も取り入れ簡素化を図り、業務の効率化に繋がられることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項に於いては業務報告書に記載し、スタッフ間で情報を共有している。課題が発生した場合すぐにカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度発生する個々のニーズに対し、臨機応変に対応している。		

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の音楽療法、演歌体操、行事の際の大正琴のボランティアを行っていく事で暮らしをより豊かにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に緊急時の受診病院や対応を確認しており、本人及び家族の希望に沿った医療を受けられるようにしている。	医療法人運営の利点を十分に活かし、法人医師による往診できめ細かな対応がなされている。入居者家族からも本人の健康状態を良く見てくれ、適確な対応をしていただき安心との声が聞かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での変化にいち早く気づき、看護職と連携し、医師の指示の下、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院連携室を通じて医療機関との情報交換を行う事で病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設のみで決定できることではないため、家族を含めたカンファレンスを行い、方針を共有し、支援している。	開設から1年のため看取りはないが、家族等の希望があり実際に遭遇した場合には早い段階から法人医師との連携をとり対応することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿い、救命講習への参加、訓練、勉強会を行い実践している。地域の病院と協力体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、避難訓練、消火訓練を実施。災害時に備えた緊急連絡網訓練も実施している。地域との協力体制は築き始めたところである。	避難訓練を年2回実施し、うち1回は夜間を想定した訓練になり、夜間の場合のリスクについての気づきも得られ、安全確保のための課題も確認できた。また、庭に「かまど」があり、炊き出しを想定しての「すいとん」作りなども行なわれている。	想定外の事態になった場合の避難経路等を検討し、それに伴い避難先の確認もしていただきたい。

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前、入居して生活している中で、傾聴をおこない、その人に配慮している。	入居者へは姓に「さん」をつけて敬意をもって呼びかけている。職員は一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切に接している。言葉掛けや対応にも配慮が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で本人の思いや希望が出た場合、実現できるためのカンファレンス、家族への協力を依頼している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を第一にし、実現できるように職員間で協力し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて美容師さんにカットを依頼している。 また、洋服も本人と相談して決めるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会を中心とし、毎食の味・量をチェックしている。また、職員と共に準備や、後片付けも行っている。おやつづくりも計画して行っている。	作られた食事は職員により配膳されている。各入居者者に対応し刻み食、トロミ食等も提供されている。献立は栄養バランスも良く、彩りにも工夫がされており入居者の方々も完食されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は毎食時、10時、15時、寝る前の6回確保し、栄養バランス、食形態は医師と調理師の指示の下で提供している。また、食事摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台にて個々に合った口腔ケア用品を選択し実施している。 時には歯科医の指示の下、適切な口腔ケアが行えるようにしている。		

グループホームゆりかご駒ヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンに合わせて排泄誘導を実施することで昼夜オムツ使用とまらないような支援を行っている。	リハビリパンツの方、パット使用の方と多様であるが、家族の希望を尊重しながら対応している。職員は誘導や見守りの際、入居者の自尊心に配慮し、さりげない支援に徹していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通して運動する機会を多くもち、水分摂取を促し予防している。また、必要に応じて医師の指示の下、投薬調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、希望があればいつでも入浴できる体制を整えている。状態に合わせ、個浴、機械浴にて入浴支援している。	入浴については入居者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせて臨機応変に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせ、声掛けなどを行い、休息、安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は全てファイリングをし、その上で状態観察を行い、医師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やレクリエーションだけでなく、役割を持って頂く事で、生活に張り合いをもって過ごして頂けるよう支援している。また、住み慣れた地域への散歩を行う事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて、外出の機会をもっている。スタッフだけでなく、家族の協力を得ながら外出の機会を多くもつよう支援している。	近所に名所旧跡などがあり、ドライブに出かけることが多い。周辺の環境は閑静な住宅地で、地域交流スペースやベランダからは南アルプスも望め、外気浴や気分転換などを行っている。	

グループホームゆりかごヶ根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持していない。 必要時家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により実施。電話の希望があった際には早急に対応している。手紙に関しては現在は希望がないため行っていないが、希望があった際には行えるような体制が整っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体から落ち着いた雰囲気を演出している。季節を感じられるような飾り付けなどの工夫をしている。	玄関には生花やプリザーブドフラワーが飾られている。居間兼食堂を中心に各居室が周りに配置され、トイレも3ヶ所あり動線も確保されている。居間兼食堂のテーブルやソファで各入居者がそれぞれにくつろぐ様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブルだけでなくソファも設置し、状況に応じて過ごして頂ける居場所の工夫がされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのある物を配置することで本人に落ち着いて過ごして頂けている。	居室には床暖房とエアコンが備えられている。各居室は個性豊かに壁紙に違いをもたせ、落ち着いた雰囲気を漂わせている。窓辺の壁には棚があり、思い思いに写真等が置かれ、一人ひとりがその人らしく過ごせるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所も張り紙をすることでわかりやすく示している。 また、通路に手すりを設置し、安全面に配慮しできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		